

相武台団地 ひばりカフェ

佐 竹 輝 子*

私はコミュニティビジネスとして、相武台団地商店街ひばりカフェというカフェをやりながら、地域住民の交流を目的とした活動をしています。相模原市も広く相武台がどこにあるのかご存じないかもしれませんが、この地域以外から学校にきている方は分からないかもしれません。小田急線の小田急相模原と相武台前の中間地点にあります。この地に建ち築54年の集合住宅です。当時にしたら超近代的な低層階のマンションといわれていました。

まず自己紹介させていただきます。東京生まれ、相模原育ち、小学校1年生のときに東京の四谷から相模原に越してきました。私が相模原に越してきたときは、多摩川を越え山が見えて川を見たときにびっくりしました。生まれてこの方、川も山も見ただことなかったのも、多摩川を越えたときに、田舎にきたんだと子供心に思ったものでした。子どもの頃は森を駆け回り、緑の多いのどかな相模原でのびのび育ちました。趣味はゴルフ、30歳ぐらいのときから始めているので、そこそこの年数は、経っています。最近息子とゴルフに行くことがあり暫くぶりの私と月に数回行く息子と同じスコアでラウンドしてきました。息子が大変ショックを受けておりまして。そんなゴルフが趣味の佐竹でございます。

私は、2015年、相武台団地商店街の一角に、ひばりカフェという、コミュニティカフェをオープンしました。来月で丸6年になります。相武台団地は、高度経済成長期、皆さんのお父さん、お母さんがまだ生まれていなかったか生まれて

ないかぐらいだと思うんですが、高度成長期は、前半期が1955年から1964年、後半の高度成長期というのは1966年から1972年のことを後半期というらしいです。その高度成長期の後半の1967年の第1期工事から始まって、当時は、総棟数446棟、4階建てで、当時7,000人から8,000人、そこに住んでいたといわれております。大変、環境はいいところです。小学校は、相武台団地を取り囲むように4校ありました。幼稚園もありました。商店街も、その団地を囲むように、小さい商店街やスーパーがたくさんあり大変にぎやかな暮らしやすい団地でありました。

私は、もう皆さんの年には結婚してまして、長男を19歳のときに産みました。子どもが子どもを産んだと言われたので、一生懸命子育てにも頑張りました。そしてそんな私が、なぜこの相武台団地に思い入れがあるかということ、その頃にはぎやかで、素晴らしい、あそこはお金持ちが住むところなんだよ、なんていうことをいわれていた所が、私の子育ての場所だったんですね。大変、環境もよく緑も多く、安全で、子どもたちが遊ぶには、最適な場所でした。若いお母さんの声が聞こえ、自転車で飛び回る子どもたちの姿が今も頭に浮かぶような、そんな想い入れのある場所でした。その子育てが一段落したところで、私は、相武台にあります、アメリカの陸軍の本拠地であります在日米陸軍キャンプ座間内にある会計事務所で、25年勤務いたしました。

その間というのは、もう子育てが一段落して、小さい子どもたちが少し大きくなった頃です。ので、あんまり相武台団地の商店街とは、ご

*相武台団地ひばりカフェ オーナー

縁がありませんでした。ですが、長い間勤めて気が付けば定年まであと何年かな？という頃に定年退職後の第2の人生について真剣に考え始めました。色々模索してる中で自分は何ができるんだろうかと考えたときに、自分が大好きなお料理で、おもてなしが好きだった自分に気が付きました。それからコーヒーが大好きだったので、いつかカフェみたいなのをやりたいなって、そんな思いが、頭をよぎる様になり時間を見つけては、ケーキを作りレッスンに行ったり、パン教室に通ったりと、仕事しながら、経験を積みました。

その頃から自分の親の介護が始まり大体50代から60代ぐらいになると、親の介護が始まるんですね。子育てが終わって一段落し、さて、これから自分の時間かなと思う頃には親の介護が始まり女性の役割は大変だなと思いました。自分の母親を見送り、やっとこれで自分の時間が持てる、よし、これで自分の好きなことができるなと思い始めてカフェ開業の準備を着々と進めていくと、今度は主人の親の介護があり、いろいろ準備していたことも、ままならなくなりカフェ開業の準備は立ち消えとなりました。その後義母も旅立ち今度は、主人の看病もすることになり、主人を2年間看病して主人を見送ることになってしまいました。自分の親、主人の親、主人まで見送り途方にくれました。そして、2015年は私の激動の1年間になりました。2015年5月には主人が亡くなり、神奈川県住宅供給公社が、このシャッターの閉まった商店街をもう1度再生に向けて始めたグリーンラウンジ・プロジェクトが立ち上がりその公募にエントリーしました。エントリーしたのは、先ほども言ったように、親の介護も全てが終わって、ぽっかり穴が開いたような状態ではあったんですが、でも退職してからこのまま何もしないでいいんだろうか？息子からも、お母さん何かしたほうがいいんじゃないの、家でこのまま何もしないでいるのはよくないよ、ということを言われまして、そうだなって、まだまだ何か

できるかもしれないと思ったのが理由です。当時私は64歳でした。その年のグリーンラウンジ・プロジェクトの公募に受かり、12月15日に、ひばりカフェをオープンに漕ぎつけました。

この団地、商店街の広場の真ん中には、樹齢60年以上の立派なけやきの樹があるんですね。そのけやきの木は、春先には新緑が青々と茂り、夏にはその新緑の青々とした葉で木陰ができ、秋には櫟が紅葉しての落ち葉の絨毯になり美しいこの広場が、とても好きで、この場所でもカフェをやりたと思いました。

そもそも、私が、なんでカフェをやりたくなったかっていうのは、ただ親の介護が終わって、自分の時間ができたからカフェをやりたかったわけではないんですね。私がこのカフェを始める一番の動機というのは、公募が始まるずっと前ですけれども、私はこの広場に時々はいり物に來たり、お散歩に來たりとすることがありました。そのときに、秋の夕暮れ時、広場のベンチで1人座ってるお年寄りの後ろ姿、ペットボトルを持って何するわけでもなくずっとそのベンチで座っている、お年寄りの後ろの姿を見たときに、はっと思ったんですね。その人は何もすることなくて、そのベンチに座ってるわけですね。この団地ができた、高度成長期、そのとき働き盛りの年代の人たちが高齢者となって、今この団地に住む高齢者の人、70後半、80、90代です。その日本の高度成長期、この団地ができ始めたときに、ものすごく頑張って日本の経済を支えてくれた年代の人たちが、今、高齢者となり何もすることもなくなって、こんなにさみしい思いしてるんだ、というのを感じました。微動だにせず物思いにふけている、その後ろ姿を見たときに、私はものすごくショックを受けました。そのお年寄りは、もしかしたら全然そんな気持ちはなかったかもしれない、ただそこに疲れたから座ってただけかもしれないけれども、私はそういうふうに感じたんです。

そのときに、ここに、こういう人たちが集え

る場所があるといいなと思いました。自分が住むご近所にお茶を飲む場所、おしゃべりする場所、そういう喫茶店というお店が、昔は町中にいっぱいあったけど、現在はそんな居場所もなくなっていました、高齢者の行き場が無いと感じ、その時の光景が一番の動機となって、この場所がまさしく最適だと感じ、この場所を選びひばりカフェをオープンする決意をしたところ です。

カフェの他には2階ではカルチャー教室も並行して開催しております。2階のスペースを利用して、散歩コースで行けるような場所に、いろんな文化を学べる場所をつくりたいなと思ひまして、カルチャースクール、英会話、水彩画、粘土クラフト、フラワーアレンジメント、アクセサリ制作、パソコン教室等多岐にわたり開催してまいりました。

何年か前から、カフェでゆうぐれダイニングという取り組みも始めました。昔はみんな、家族団欒でお食事してましたが子供の成長と共に、夫婦だけの生活になり食事も昔の様な家族団らんとはかけ離れたものとなり、現在では高齢者の方たちは、ほとんどが子どもたちは巣立って、夫婦二人暮らし、もしくは、ご主人が施設に入りました、奥さんが亡くなったなどの理由で、一人暮らしの人が多い中。その人たちが毎日1人でぼつんと、ご飯を食べる話を聞いてだんだん自分が年取ってきて、1人で食べるんじゃなくて、みんなとおしゃべりしながらご飯を食べられたら良いなという思いがありました。ゆうぐれダイニングでは、私が作ったお料理を、みんなでテーブルを囲んで食事をしながら、そして、たわいないおしゃべりをします。もう、それでアハハ、オホホと笑って、その会話をすることがとても大事。そして、私が作ったお料理に、何もしないで座ってていいから、一緒にご飯食べようという、取り組みです。この間は大船渡からサンマが届いて、そのサンマを炭で焼きながら、ゆうぐれダイニングをしたところ です。

その他、欲張って、あれもこれもと、ちょっと考え過ぎたところもあるんですが、定期的に毎月いろんなライブをやっています。シンガー・ソングライターの人だったり、プロの人でも来たり、クラシックの人もいたり、ジャズの人もいたりって、いろんなジャンルの人を、お招きしてのライブ活動です。これも、なかなか生の演奏、生の歌を聞くチャンスがない、もう高齢になると遠くまで行けないので、近場で皆さんが楽しんでいただけるようなライブ活動もしてまいりました。今月も、あります。来月も、クリスマスライブが控えています。

その中で、この商店街で私がカフェを開くにあたって、公募に受かったのは、ただ「カフェをやりたいです」、それで受かったわけではありません。この応募条件の中に、この相武台団地商店街を街づくりとして、どのように、自分が行動、活動ができますか、ということが、一つの課題としてありました。自分なりのやり方でいいんだけど、この街づくりのために、どのような貢献が出来るのだろうかと試行錯誤の日々でした。たくさんの人にご協力いただきながらやってきました。

その中でも二大イベントがあり、代表的なのが、春にやる「ハワイアンフェスタ」です。一日、朝から夕方までフラダンサーの人に踊っていただき、演奏していただき、一日フラに浸っていただく。そして、いろんなワークショップがあったり、食べ物ブースがあったりということで、本当に何百人というお客さんが来ていただいて、フラのチームも、いろんなところから集まっていたりという大きなイベントもさせていただきました。秋は、二大イベントのもう一つ、「秋楽祭」です。やはりいろんなワークショップがあったり、歌とか踊りとかさざまなパフォーマンスの方、バルーンアートという風船でアートしてくれる方だったりとか、とにかく、いろんな方にご協力いただいて、この二大イベントをやってまいりました。

しかし今コロナで2020年、2021年とこのイベ

ントはなくなりました。本当に残念ながら、みんな、地域の皆さま楽しみにしてくれている、こんなイベントが全くできない状況ですが、今年は、今の3年生が相武台商店街に少しずつ実習として入っていただいています。今年は実習生11人ですね。この商店街の一角の場所を借りて、こども食堂を月に1回やっているんですが、その子どもたちに、夏休みの学習支援、夏休み宿題を一緒にやろうということで、チラシを作り、子どもたちに声を掛けて学習支援をしました。しかしながら、コロナ禍により実習が始まって半分ぐらいのところで、とうとう子どもからコロナ患者が出てしまいました。それで学生さんたちも遠くから来ているので、万が一のことあったらいけないということで、学習支援も志半ば、中途半端な形で終わってしまいました。本当に、もうこれで何にもできないのかなと思っていたところ、緊急事態宣言も解除になり、この10月、11月、12月。また実習生に大変ご協力いただいております。

子ども食堂を初めて5年以上の歳月が経ちましたが、ボランティアも20名近くの方々が協力して、月1回ではありますが、80食ほどのお弁当や、食材の配布など行っております。

5年間の間にはフードバンクさん、地元農家さん、卵屋さん、お肉屋さん、企業様からの食材の支援を頂いております。地域に住む人たちが貧困や、子育ての悩み、様々な苦労をされてる人達に寄り添える想いを持ったボランティア仲間によって継続することが出来ています。

その他には、相模原市産業振興財団というところが毎年行っている、起業したい人、この相模原でいろんなことをやりたいと思っている人たちが受ける、地域プロデューサー養成講座という無料の講座があります。毎年その講座に出た人は現地を見るということで、講座参加者は、うちのお店に来ていただいて、周りを見ていただいたり店を見ていただいたり、それから私の話をちょっとだけ聞いていただいたりというようなこともさせていただいたりしていま

す。その講座にちょっと出させていただいたことが、私が、青学のコミュニティ人間科学部とのご縁につながったと思っています。

それから「100人カイギ」って皆さん、聞いたことありますか。何年か前に港区から始まった100人カイギというのがあります。それは今、相模原でも2年前、発起人がいて始まりました。その第1号で私も100人カイギに出させていただいたんですが、100人カイギというのは、地域の面白いことをやっている人、そういう人たちを探す、発掘して、そういう人たちをつないでいこうということで、毎回5人の登壇者がお話をします。登壇者が100人になったら、その会議は解散します。解散することで、100人になるまでに、その登壇者の人たちの横のつながりができたりとか、また、それを見に来た人、聞きに来た人たちが、いろんなつながりができて、大きな地域とのつながりができるというのが100人カイギになります。今、この神奈川県でも東京都でも横浜のほうでも、100人カイギの発起人がどんどん広がっています。そんなところにも出させていただいたこともありまして、今や相模原で、いろんな方とつながることができました。

ひばりカフェのモットーは、カフェで何ができるのかなって考えたときに、私の中では一番身近なところで、お客さまに美味しいコーヒー、おいしいお料理を提供し、来ていただいたお客さまとコミュニケーションを取る、楽しい会話をする、ということです。その会話はとっても大事なんですね。先ほども話したように、この高齢者の住む団地では1日誰とも話をしたことがなかった、テレビ相手にうなずいているだけ、そんな生活をしている人がたくさんいます。先ほど言った、今、相武台の団地で住んでいる人口は、現在で団地の中だけで昔は7,000~8,000人いましたが、今や4,000人ちょっとぐらいです。それも独居老人が多いです。2人で暮らしていても、デイサービスに通っています、施設に入っちゃいました、出たり入った

りですとか、入院しちゃいました、そんなような家庭ばかりです。1割、2割が、もうちょっと若い70代とか60代ぐらいの世代ですかね。若い、小さいお子さんがいるご家庭は、ほんの少しです。そんな状況の中で、やはり誰とも話をしなかった、商店街に出てきて買い物をして、ちょっと八百屋さんの奥さんと話したぐらい、ちょっと、ひばりカフェの佐竹さんと話したぐらい、そのぐらいの会話しかないんですね。だから、今、会話がとても大事だなということを、つくづく感じています。

あとは、私がこのお店を2015年にオープンしたときは、商店街12店舗あるんですが、その中の4店舗しか、もう開いてなくて、あとは全部シャッター、歯の抜けた何かみたいな、そんなさみしい商店街でした。その商店街の中で、何とか頑張っていくには仲間が欲しいなということで、やはり空いている店舗にいろんな方が入ってほしいということで、その誘致活動も頑張って、いろんな方にお声掛けさせていただいていました。

その後、いろんなメディアなんかでも取り上げられるようになりました。地域の少子高齢化といわれ、こういう団地の商店街や小さな町では、どんどん小売業が店を閉めています。その店を閉める理由は、後継者がいないということももちろんですけども、やはり大型店舗の、車で行けば1週間に1度、買い物に行けば用が足るようなヨーカ堂さんやイオンさんや、エイヴイさんとかコストコさんとかいう、いろんな大手の、大きな倉庫のようなお店がどんどんできていますので、本当に小さなお店は閉めざるを得ないというのが現状です。

私の今後の店づくりとしても、この商店街12店舗のうち空いている店舗数は、今もう2店舗しかありません。もうそれだけ入ったということですね。この何年か、私がここに来て6年の間にオープンしたお店がふえました。それが今や残り2店舗となって、この11月から2店舗のうちの1店舗が公募になりましたので、

またきっと仲間が入ってきてくれると信じて期待しているところです。

今後の団地の商店街で、どんなふうなことをしていこうかなということの中には、野外シアターや音楽会、トークショーみたいなことも当時は考えました。でも今、私が力を入れているのは、先ほども紹介させていただいたように、こども食堂です。見えない貧困といって、学校で食べる給食が唯一のご飯という子もいるといわれています。本当にそうなのかと思うかもしれませんが、それから年金生活者が多いこともそうだし、親御さんが生活保護を受けているという、ご家庭も少なくないです。コロナ禍でもあるので、そういう家庭も増えたということは事実です。

皆さん、まだ学生で、大学に入っても、コロナで大した勉強もできないような1年を過ごしてしまい、まだ本格的に、この学部に入って、志っていても、なかなか難しいかもしれません。でも、再来年から実習に入ると思うので、ここにいらっしゃる学生さんの中でも、もしかしたら何人かが、うちのひばりカフェに来ていただけるようなことになるかと思います。今、学生さんたちに言えることは、自分が何をしたいのか、どんな目標を持って、この学部に入って将来的に何をしたいのかなって、ぼんやりでもいいので自分なりの目標を持って進んでいっていただきたいな、と思っています。まずは学校を卒業すること、そして、今、就職難でもあるから、大学を出たからって言って、ちゃんと就職できるかどうか分かりません。のほほんとした気持ちでいても駄目かなとも思いますが、今後、自分たちが将来的に、社会に出たときに、どういう方向性で行きたいかということは頭の隅に置いて、心の中でしっかりと構築していっていただいたほうがいいかな、というふうに思っています。

あとは、ずっと継続して思っていることは、地域の笑顔を増やしましょう、ということです。お年寄りがやっぱり楽しく過ごせる場所終

の棲家であり、子どもたちの笑顔が見られる場所であって、そして子どもたちを見守っていく私たちでありたいな、ということを考えています。そして、お年寄りも今、人生100年っていわれている時代ですので、やっぱり生涯現役で自立した高齢者になっていかないとけないなと思ってしています。

色々と6年間のこんなことをやっていたおかげで青学の皆さんとお話する機会ができました、皆さんが実習に来ていただけるような機会をいただきました。とても感謝しております。最初にカフェをオープンしたときは予想もしていませんでしたが、思いがけない展開になって、今こうやって実習の学生さんたちを受け入

れさせていただくような、そんなひばりカフェになったかな、というふうに感じております。

今後の目標としては、子どもの成長を地域で見守ったり、私と同じような志を持った仲間と、また、この地域を盛り上げて、そしてこのコミュニティをどんどん広げていきたいと思っています。お年寄りを見守りながら、この地域でしっかりと学生さんたちとも協力し合って、学生さんたちが思う地域のコミュニティってどんなことなんだろうって、若い人の目線で見えていただいて、どんなふうになったらコミュニティっていいのかな、みたいなことを、共に学んでいきたいと思っています。